

3 授業公開

1. 企画趣旨

本学では、授業の質的向上を目指す諸活動の一環として、平成 24 年度より授業公開を行っている。原則全ての授業を対象とし、教員のみならず職員も見学可能としている。教員および職員が相互に研鑽を図るために、全学規模の SD・FD 活動として実施したのは平成 24 年度以降のことであり、令和3年年度で 9年目となる。

今年度も新型コロナウイルスの影響が大きく、前年度同様に遠隔授業の見学を基本的なやり方とした。提出方法については、Web上で提出フォームにて提出することとした。実施期間・提出方法をこのように設定することによって、より授業公開が身近に感じられ、気楽に互いの授業から学ぶことができるのは昨年から学んだとおりである。

例年と同様、教員の多くは所属学科の授業を見学する傾向にあるが、今年度は、演習科目（実習・実験科目も含め）の見学も多くみられた。

見学者より提出された感想は、いずれも示唆に富むものであるが、代表的なものを以下、紹介する。

2. 実施概要

【見学期間】

(1) 2021 年 11 月 24 日 (水) ～30 日 (火)

心理・文芸文化・社会情報デザイン・生活情報・メディアコミュニケーション・健康栄養

(2) 2021 年 12 月 1 日 (水) ～7日 (火) 食物栄養・食品開発・人間福祉・幼児教育・児童教育

※ 土曜日に開講している科目も見学対象とした。 共通・資格科目については、時間割表に記載のある時限での公開とした。

【申請期間】

2021年11月15日 (月) ～19日 (金)

見学の際は、上記の期間内に、見学対象の授業者へ事前に学内メールにて申請することとした。

【見学対象科目】

原則すべての授業（ただし、共通科目「コミュニケーション演習」「英語コミュニケーション基礎 b」「英語コミュニケーション応用」、児童教育学科専門科目「Oral English I b」、社会情報デザイン学科専門科目「英語 コミュニケーション I」を除く）

【見学者】見学者件数のべ 104 名

教員97名（非常勤含む）、職員7名

*このうち、複数の授業を見学した人数は8名である。

(※ 2授業見学者 5名、3授業見学者 3名、)

【見学方法】教室訪問 73名、 ZOOM 31名。(のべ人数)

Zoom ミーティングまたは教室内の見学のうちいずれか、授業担当者の認めた方法にて見学。

【感想】

➤ 「企画構想ワークショップ I」（教室を訪問）

【内容】「共感」の中で発見したさまざまな事柄のなかから、「何が改善されるべき問題か」をグループで話し合い、発見し定義する。

【感想】コロナ以後の授業を初めて見学しましたが、オンラインとのハイブリッド型の授業は私にとって、とても新鮮で新しいツール（Google Jamboard）も活用されていたり、授業の進化がすごいなあと感じておりました。1年生後期必修で学科としてどんな学生を育てたいのかというのがみえるような授業だと思いました。また私が思っていたよりも、学生たちが積極的に課題に取り組む姿勢や協力する様子が見られ、それを先生方が上手にサポートされているのがよくわかりました。

➤ 「日本文学研究A」（教室を訪問）

【内容】枕草子「『五月の御精進ほど』の段 ホトトギスの声を尋ねて」に関する解説

【感想】学生が理解しやすいように、学生にとって身近な漫画なども取り入れながら授業を展開されていた。パワーポイントの資料など様々な準備をされており、2時間の授業に対する細やかな準備が感じられた。テキストの音読は遠隔受講者を指名されていて、遠隔受講でも教室での受講と変わらない配慮がされていた。学生は皆真面目に受講していた。学生の教室内での座席は、スクリーンが見やすいためか、後方に着席している学生が多かった印象である。

【感想】落ち着いた雰囲気のもと、大変わかりやすく、素晴らしい授業でした。

➤ 「読み聞かせ」

【内容】グリム童話の諸版・諸訳比較に関する解説と、グループワークでのテキスト比較。またその作業を通して訳文音読の練習と解説。

【感想】（Zoomで参加）素晴らしい授業で感動しました。「昔話の内容を日本語で朗読するときには、必ず同形式の繰り返しが起こるが、それを（寝る前に）聴く者に心地よい安定したリズムをもたらす」ことが良く分かりました。現代の日本人が文末や句末を上昇・強調しがちで、語句の区切りを多くつけすぎになるところを、先生は上手に指導なさっていました。

英語の散文の朗読や英会話では、同じ語句が繰り返されると、旧情報部分は代名詞になったりして必ず弱く低く早く言わなければならないと思いますが、英語で書かれた童話の朗読音声が必ずしもそうになっていなかった理由が分かった気がします。つまり、韻文的となるのだと思います。

小学校教諭を目指す人たちに「英語音声学Ⅱ（発話実践）」を教えている私は、母語である日本語の美しい朗読に何が必要なのかを理解した上で、英語の発話もできるだけ科学的に教えていきたいと考えました。

【感想】（教室を訪問）音読に備えたテキスト研究の大切さを学びました。今回取り上げられていた内容は、個人的な研究領域とも近くて、大変興味深く拝聴いたしました。Zoom参加の学生たちに、グループワーク中および授業開始時と終わりに顔出しさせることも参考になりました。

【感想】（教室を訪問）対面、オンラインの両方の受講生に対して、頻繁にコミュニケーションを取りながら授業を展開されており、自分の授業でも学生とのやり取りの頻度をもう少し増やしていこうと思いました。また、翻訳比較の活動の中で、時代や翻訳者の違いについて確認した後、まずはグループで意見交換を行い、その後グループごとに発表するという学生が主体となった活動が軸となっておりましたが、そこでのファシリテーションが大変勉強になりました。解説や説明の際、先生の体験談などを盛り込みながら、ユーモアを交えてお話しなさっているのも大変参考になりました。どうもありがとうございました。

➤ 「保健体育科教育法Ⅳ」（教室を訪問）

【内容】中学校保健体育科の指導法に関する科目で、履修する3年生が中学校1年生の保健領域を題材とした「模擬授業」を実施していた。2名の学生による模擬授業の実践、授業後の振り返り、教員の講評および評価シートによる個別指導がなされていた。

【感想】小学校体育科の指導法に関連する授業科目を担当する立場から、今回の授業を興味深く見学することができた。模擬授業の実践に備えて、履修学生への指導案作成をはじめとする担当教員の細やかな指導がなされている印象を持った。

【感想】学生が一人ずつ模擬授業を作って、発表する授業でした。先生方が、どのように学生を指導し、講評しているかわかったとともに、学生たちがどのように授業づくりをしているかがわかり、大変勉強になりました。

➤ 「**カウンセリング理論**」（教室を訪問）

【内容】ユングの分析心理学に関する解説。

【感想】ユングの分析心理学を基軸とし、東畑先生の体験や学生の質問から引き出した物語を題材に、学生の理解を深めていた。学生との交流や働きかけ方など、勉強になる点が多かった。

➤ 「**起業論**」（教室を訪問）

【内容】ビジネスモデルキャンパスについての説明およびそれをとおした分析事例の紹介

【感想】ビジネスの構造を可視化することに長けたフレームワークであるビジネスモデルキャンパス（BMC）について詳しく説明したうえで、いくつかの事例をとおしてその活用法を教授するという内容の授業でした。説明は大変クリアーで、またBMCの活用法を様々な角度から説明されていてとても興味深く拝聴しました。

もっとも参考になったところは、見吉先生のところのゼミ生がビジネスの領域で卒業論文を書く際にこのBMCを理論図式として活用しているという点です。たしかに、こういったシンプルな図式は、まだ知識の十分ではない学生が複雑な現実の事象を分析するためのきわめて有効なガイドラインたりえます。見吉先生の授業を拝聴して、私も学生が卒業論文を書く際に依拠しうる有効な図式を探しておかねばならないなあということに気づくことができました。

このたびはお忙しいところ、授業を拝聴させていただきありがとうございました。

➤ 「**食品の安全性評価論**」（教室を訪問）

【内容】食品に含まれるリスク要因と事例⑤

【感想】教員からの講義だけではなくゲームなどの演習も組み込まれており、学生が主体的に学ぶことができる授業展開であった。今後自分の授業にも取り入れていきたい。

【感想】私が担当する「食品安全学」と共通する内容が多くあるので、渡辺先生のカードゲームによるリスクコミュニケーションの学習方法は非常に参考になりました。ありがとうございました。

【感想】参加させていただいて大変楽しかったです。講義と参加型グループワークを組み合わせ、学生の注意力を持続させる有効な時間の使い方も大変参考になりました。学生にとって最高の授業と思い、私も可能な部分はぜひ今後の授業に取り入れて行きたいと感じました。

➤ 「**食物栄養学概論**」（教室を訪問）

【内容】日本人の食事摂取基準の概要について

【感想】ノートに書き留めてもらいたい大切な点をPowerPointに分かりやすく示されていました。先生のお話しのされ方がお優しく、学生の受講態度も非常に良好でした。

【感想】PPTを使った説明であったが、ページ数も多く、分かりやすかった。

➤ 「**フードマーケティング論**」（教室を訪問）

【内容】パワーポイントによるマーケティングリサーチに関する授業。

【感想】私が担当している給食経営管理論の授業でも、マーケティングミックス4Pおよび4C、マーケティングリサーチなどのマーケティングに関する名称の説明は行っていますが、専門とは少し異なることから具体的な内容、その効果、必要性を理解していませんでした。高谷先生の授業は、マーケティングリサーチの詳細な説明と、具体的にどのような調査が行われ、商品に結びついているのかなど非常にわかりやすく興味深い内容でした。本当にありがとうございました。

➤ 「**総合的な学習の時間の授業づくりA**」（三藤あさみ 他）（教室を訪問）

【内容】作成途中の総合的な学習の時間の指導案について、発表し合い、よりよいものに修正していくグル

ープワーク中心の授業。

【感想】総合的な学習の時間の授業の目標に即して、各自がアイデア豊富に単元計画を作成しており感心した。学生には適切な資料が渡されており、創造力を働かせて取り組んでいた。

【内容】総合的な学習の時間について小学校で実践された公開授業の録画を元に、授業の紹介と現在の総合的な学習の時間の在り方についての講義

【感想】今、小学校ではどのように総合的な学習の時間が進められているのか実践的に理解することができる授業である。

➤ 「総合的な学習の時間の授業づくりA」（星野敦子 他）（教室を訪問）

【内容】新学習指導要領で新しく示された「主権者教育」に関するテーマを基にした、グループワーク、指導案づくりの場を参観した。新座市選挙管理委員会との連携を踏まえ、実際に小学校に出向き出前授業を実施するための具体的な実施案を作成するに当たり、参考となる指導案の提示や評価規準の設定等、丁寧な説明がなされており、学生が目的を明確もち、意欲的に活動したくなる細かい配慮のある授業であった。

【感想】学生の主体性を尊重された授業という印象が第一である。また、学校現場の教員の声を知らせたり、授業最後には、グループごとの発表の場があったりと、他者の視点から新たな活動の視点を見いだす意図的な場があり、質の高い模擬選挙の活動となるよう、様々な工夫が施された素晴らしい授業であった。

➤ 「施設実習Ⅱ」（学内の代替演習）（教室を訪問）

【内容】施設実習Ⅱでの学外実習が再調整の上で実習配属ができなかったために、学内演習の実施がされた。乳児院の援助について自立支援の4つの課程に基づいた事例を視聴し、ディスカッション及びスーパービジョンが展開された。

【感想】保育士としての専門的知識と技術技能を乳児院の現場に即して解説しているとともに、援助者として求められる視点や子ども理解、自立支援計画の策定につながる援理解について取り組んでおり、学生の気づきと学びを想定した段階性のある授業が展開されていた。

3. まとめ

実施期間中に各教員は1つ以上の授業を見学し、見学記録を提出することにした。本年度の見学者数はのべ104名であった。昨年度ののべ見学者が83名であったことと比較すると大幅に増加したと言える。オンラインでの授業公開に教員も慣れてきたということであろう。これは学生のオンライン授業への慣れとも同期していると考えられ、評価すべきことと思う。

提出された感想を概観するに、オンライン授業に慣れ、昨年度よりも中身についての評価が増えており、オンライン授業における質の向上が問題意識として共有されたのが今回の見学者数の増加であったと考えられよう。

授業公開は「教員相互で授業を公開することにより、授業の質的向上を図るための一手段」と定義される。そのような目的は今回果たされているように思われるが、課題もある。各人が互いの授業から刺激を受け、それを活かしていくことが必要である。また定量的に授業を評価し、それらを学外にも透明性をもって公開していくことが必要だと考えられる。